

## 受容・共感・自己一致



11月2・3日と森のようちえん全国交流フォーラムに参加してきた中で、今回もわたしが分科会で聞いた徳島のトエック代表伊勢達郎さんのお話から「受容・共感・自己一致」ということについて少し書きたいと思います。

わたしたちは震災後、原発事故によって福島から失われた、安心して遊べる環境を整えようとして、ひたすら進んできました。福島から山形県米沢市の活動場所を整備したり、週末の自然体験を提供したり、冒険遊び場を作ったり、民泊を開設したりとずっとこの7年あまり走ってきたように思います。

そんなたけの子を利用してくれる方々は延べ一万人を超えたのではないのでしょうか。でも、振り返ると果たしてそれで十分だったのかと、わたしの中にもややもやしたものが残っています。

子どもを活動の中心におき、大人には間接的な影響が及べばそれでいいと考えてきました。でも、どんなに子どもたちが心身共に開放されてたけの子で遊んでも、それは一時的なもので、皆、家庭に帰っていくのです。各家庭がかかえる問題はあまりにも大きく感じられ、わたしは目を背けてきたように思います。

数年前、森のようちえん全国フォーラムで伊勢さんのお話しを聞いた時から、ずっと心にひっかかっていたのですが、今回3回の分科会を全部伊勢さんのお話しでとることで、少し解決したように思います。わたしがしたかったことは「これだ！」とストンと胸に落ちたからです。

大学生時代、キャンプにはまり、夢中になった伊勢さん。そのことで、もう大学を辞めようと思って、教務室に行って話した人がたまたまカウンセリングの人だった！という運命の出会い!! 「なんだこれ、キャンプより気持ちいい」と気づき、はまっていったそうです。そして、両方くっつけたらすごいんじゃないか! ということで始めた「ヒーリングレクリエーション」。

お話しを聞いていて、人との出会いの不思議を感じずにはいられませんでした。

「受容・共感・自己一致」については、保護者会やスタッフ会議、東北文教大学のゲストとしても話しました。

1. 受容（あなたの味方よ。関心を向ける）
2. 共感的理解（あなたの気持ちはこうね）
3. 自己一致（正直さ。オープンマインド。背伸びしない）

「安心して自分が語れたりする場づくりが大切。表現してロクな経験をしていないから、表現しなくなる。安全はつまらない。おもしろいことは危険。」

子どもも自然も思い通りにならない。それを起点にする教育。教えることも育てることもしつめることもできない。  
自由は衝動、又は怠惰になる。本当はそれは自由ではない。自由を使いこなせる人になって欲しい。

親も同じ。森のようちえんにフィットする親ばかりじゃない。その人も含めて、受け取っていききたい。土でいうと発酵、腸でいうと腸内フローラ。いろんな人がいていい。

くすばらしい指導で育つ依存心（学校で行われている教育）  
↑気になることについていけ！  
↓これは伊勢さんが話してくれたことの一部です。わたしはもともと聞いていたと思



「一段ボールに閉じ込めたジャガイモが光の方に芽を伸ばすように、心は必ず光に向かって伸びようとする。だから、その人がもっている命の力を引き出すだけでいいんだ」  
「それには、知識も経験もない！ ひどりでいい！」

お互いがそのような存在になる必要がある」  
来年は伊勢さんのやり方を取り入れて、ヒーリングレクリエーションをやっていきます！  
何が起きるのか、どんな人と出会えるのか、今からワクワクします。 辺見妙子

### 寄付や支援をいただいた方々11月 順不同

#### 支援金

渡部鋭幸様 竹内尚代様 安東洋子様

秋山ちづる様

ツナガルうまれるネットワーク様

橋口亜由子様

芋煮会でたくさんのご寄付を頂きました。ありがとうございます。ごさいます。

チェロコンサート 土田英順様

大根、ピーナッツ 星啓二郎様 星すみ子様

柿 本田進様

読み聞かせ 細谷洋一様

